

年間第 30 主日

ルカ 18・9-14

2013.10.27 9:30 ミサ

オリビエ・シェガレ

(パリミッション会司祭)

日本人の目からからすると、今日の譬えに出るファリサイ派の人の態度はあまりにも凶々しいというか、おかしいと思われるのではないかと。確かに、熱心で、教会の維持費をきちんと払っているし、倫理の掟やルールをきっちり守っていて、立派な方にしか見えない。しかし、皆の前でこんなに自信満々でうぬぼれるとは。しかも、いつも比較して、自分が他の人より優れていると思いがり、そのために神に感謝することはほとんどないことではないか。先週4ヶ月ほどサバチカル休暇を取っていたフランスから帰ってきたが、皆が鼻が超高いと言われるこの国でも、こういうような傲慢な人に会ったことはない。幸いに日本でも会ったことはありません。日本に生きているわたしたちにとっては祭壇のすぐ近いところで祈るファリサイ派の人はあまりにも極端のように映っているでしょう。今の教会だとフランスでも、日本でも、ミサにあずかっている大抵の信者は、祭壇に近い前の列よりも、遠く目立たないようなところに立ちたがる傾向があります。フランス人は神父様に気づかれず安心して眠りたいかもしれない。日本人は前に出るのには照れくさいので、後ろに隠れて安心して祈りたい。日本の文化は控えめの文化と言われて、自分を下げるのは美德とされています。日本語の中には、外国人を驚かせるほど、「お粗末でした」とか、「家が汚い」とか、「拙い話ですまない」とか、謙遜を表す表現はいっぱいある。だがそれはあくまでも礼儀上の謙虚さで、必ずしも本心ではなく打算的な気持ちが入っているかもしれません。心の中でむしろお上手ですねと誉めてもらいたい。

やはりどの国の人でも、自己自惚れというか自分の過ちを認めたくないという心が働いているでしょう。もちろんわたしが絶対正しいとか、自分が完璧だとか言ったり、思ったりする人はほとんどいない。大抵の人は自分が普通だ、普通人だということではないかと思いますが、しかしこの普通という意識の裏には何があるのでしょうか。悪いことをしていない、礼儀正しい生活している、一般並みの常識を守っている、決して変人のような人ではないというような気持

ちかもしれません。こうした普通の意識は決していけないが、場合によって普通ではないと思われる人への軽蔑、あるいは差別意識が交じり合っているかもしれません。その意識が自惚れの要因となり、わたしは変わったAさんとBさんのような人ではなくて良かったというファリサイ派の人の気持ちとつながる。わたしは天才でも聖人でもないが、せいぜい普通の生き方ができて、感謝しています。わたしは誰にも大きな迷惑をかけないし、普通に仕事のルールを守り、普通の暮らし上の常識をもっているから、守っていない人よりもましでまともな人だ、と。

心の中でこういうふうに思う時にわたしたちの意識はファリサイ派の人のそれと変わらないでしょう。ファリサイ派の敬虔な人は当時、社会的ルールとされていたいわゆる律法の掟をよく守っていました。守っているからこそ自分たちには問題がない、無事で救われるに違いない、と。問題があり、救われないのはきちんと守ることができない人のこと。そう思っていた彼らにとって、一人の人の命よりも、律法の掟が絶対であった。これはいわゆる律法主義のこと。これはユダヤ社会のことで、わたしたちとは関係がないと思うかもしれないが、わたしたちの生き方を律するような見えない律法主義があるかもしれない。それは世間並みの倫理観、多数の人の考え方に無批判的に合わせるような順応主義です。世間を支配する価値観をそのまま鵜呑みして回りの空気の力に屈して、皆が期待するような答えを出す。それによって安心する、自分が正しいという思い込み。思い込んであるゆえに違うように考える人を見下し、場合によっていじめてしまいます。

ファリサイ派の偽善的な態度と対照的に、遠く後ろに離れている徴税人の祈りが聞こえてきます。彼は何々をしてしなかったとか、何々を守らなかったとか一切口にせず、ただ目を下げて胸を打って、罪人であるわたしを哀れんでくださいと言うだけ。彼の謙遜は決して礼儀上のものではないし、ポーズや弁解でも、迎合でも、自己嫌悪でもない。彼はただ自分のありのままの姿を神の前にさらけ出して、ひたすら赦しを願っています。

彼の祈りこそ神さまの気に入ったと言われている。彼の正しさは自分の自慢できる正しさではなく、神の義、すなわち神の赦しによって無償に与えられる正しさ、祈りによって与えられる賜物です。自信満々のファリサイ派の祈りではなく、心の真の叫びから生まれる祈り。主よ、どうかわたしを哀れんでください。

祈りなしには真の謙虚さ、本物の謙遜と言うのはありえない。信頼が込められたこの祈りの時こそ、わたしの小ささが見えてくると同時に神の慈しみの深さが体験できます。これが今日の福音の意味ではないでしょうか。